

学校との連携における体験講座

地域を学ぶ	○	地域でつながる	○	地域に還す	
-------	---	---------	---	-------	--

1 学習プログラムの展開

日 程	場 所	学 習 ・ 活 動 内 容
8月～9月	河内公民館 油木協働支援センター 等	○講師と連携 ○学校との連携（学校運営協議会で調整）、地域への呼びかけ
10月24日(火)	河内公民館	【体験講座その1】 ①チョークアート ・「どんぐり」をテーマにチョークで絵を描いた。
11月28日(火)	御調西小学校	【体験講座その2】※図工との関連 ②焼き物 ・お皿、お椀やコップなどの形を作成した。
12月4日(月)	河内公民館	【体験講座その3】※総合との関連 ③しめ縄づくり ・作った稲わらで、地元神社のしめ縄を新調し、自分の家のしめ縄を作った。
1月12日(金)	御調西小学校	【体験講座その4】※図工との関連 ④焼き物 ・6色から選んで釉薬（ゆうやく）がけをした。
1月23日(火)	御調西小学校	【体験講座その5】※理科との関連 ⑤化石クリーニング体験 ・出土した化石から、地球の歴史を学習した。 ・石や岩を砕いて、化石を取り出した。 ※公民館活性化モデル事業（油木協働支援センター）出前講座
1月24日(水)	御調西小学校	【体験講座その6】※総合との関連 ⑥とんど体験 ・前日、地域住民が竹や薪などの準備を行った。 ・児童と地域住民が協力してとんどを組み立てた。 ・餅を焼いたり、焼き芋を作ったりした。



チョークアート体験



焼き物体験



化石クリーニング体験



しめ縄づくり体験



しめ縄づくり体験



とんど体験

対 象	① 小学3年生 ②④小学5年生 ③⑥小学4年生 ⑤小学6年生 ①～⑥の対象児童と地域住民
経 費	① 12,000円 ②④ 19,750円 ③ 5,000円 ⑤ 21,300円 ⑥ 学校が準備
連携先	御調西小学校、学校運営協議会、河内地区青少年健全育成、地区老人クラブ (河内清和会)、河内地区社協、河内地区住民

問
合
せ
先

〒722-0343

広島県尾道市御調町丸河南 90-1

電話：0848-76-1981

ファクシミリ：0848-76-1981

2 講座設定の理由（学習の目的）

公民館の講座を学校の授業と関連させて子供たちを対象に開くことで、公民館活動の活性化を図るとともに、地域の資源を活用し子供たちが地域のひと・もの・ことに興味関心をもつことで地域に愛着をもって主体的に関わろうとする態度を養成する。

また、他の地域との連携を通して、子供たちにより充実した体験活動の場を提供できるようにする。

3 学習目標

○地層とその中の化石を手掛かりとして過去の環境と地質年代を推定できることを理解する。（理科の目標）

○表現の活動を通して、発想や構想、技能を身に付けることができる。（図工の目標）

○地域資源に触れる機会をつくることで、地域に対する愛着心を育む。

○地域の人と子供たちが講座を通して交流し合うことで、地域と学校のつながりを強め、地域の活性化のきっかけとする。

4 事前に必要な知識や準備物

・各講座の内容や準備物、学習内容を事前に講座運営者と確認する。（実際に視察する。）
・学校で用意する物、公民館または講座担当者が用意する物を、連携の中で役割分担する。

・学校運営協議会等で子供たちにどのような力を付けることにつながるかを、学校と地域が共通認識しておく。

5 留意点

・出前講座（油木協働センター）の報償費：交通費を含めてお支払。（要相談）

・体験講座の材料費：300円/1人（化石のクリーニング体験会）

600円/1人（チョークアート）

・学校連携においては、校長先生、担当教諭と相談。

6 成果

- ・化石クリーニング体験では、参加した児童が「前よりもっと興味が持てた。化石から地球の歴史が知れてよかった。」など、興味関心を喚起し、理科の学習の理解を深めることができた。
- ・チョークアート体験では、地域の高齢者と共に体験。思い思いの作品を完成した。「可愛らしいのが出来たね。」「上手に出来た。」など高齢者とのふれあいが出来たのが意義深い。また、色合いの変化についての理解を深めた。
- ・焼き物体験では、「形作りの難しさ」「釉薬に浸け、本焼き後どういった色合いになるか」などを体験する機会がほとんどない今では、貴重な体験である。立体的な姿を想像し、釉薬への知識を深めた。
- ・古くからの地域行事として行われてきた「とんど」も、昨今は行わない地域もある。その中で、初めて体験する児童がいた。「とんど」の謂われについて事前学習し、地域の方からも説明を受けて、学ぶことができた。伝統的な行事の継承に繋がればよいと考える。

7 課題

- ・報償費や材料費などの経費面をどの団体から支払うかなどが、大きな課題である。
- ・地域の方々の参加者の呼びかけを工夫する。
- ・土・日曜日など休みの日は、子ども達は、スポーツ活動（子ども会活動）があるので、平日の授業時間を利用する事が多くなるため、学校との連携をしっかりとっていく必要がある。
- ・しめ縄飾りを作る人など、伝統的な文化に関わる人が減少していて、次世代への後継が課題である。

8 今後に向けて

- ・次年度以降へ継続していく事はもちろん、楽しい行事としての位置付けで終わることのないようにする。
- ・学校と対話をしながら、継続して取り組んでいきたい。その中で、この学校区だからできる資源を活用して、地域と子供たちが体験を通してつながる場を提供していきたい。